

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500228		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト流山		
所在地	千葉県流山市名都借1068-8 2F		
自己評価作成日	令和5年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>スタッフは一人ひとりの個性を尊重するとともに、その日その時の状態に応じた最適なサポートの在り方を職員同士で情報を共有しながらサポートの在り方を見極めます。大事なものは、ご本人の生きる力を信じ、ご自身で何が出来るかという視点、出来た時の喜びを共に共有することが出来ることです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「その人がその人らしく」を理念とし、ホーム内の各所に掲示して周知している。自立支援として、調理や配膳、下膳、ホーム内の清掃などを職員と一緒にこなっており、利用者個々の持つ力を活かす良い機会となっている。協力医による訪問診療が月2回、看護師の職員による健康管理が週1回以上ある。その人らしさを尊重するため、看取りにも力を入れている。医師や看護師の指導のもとでおこなう看取りには、家族からも感謝の声が上がっている。コロナ禍でも工夫して外出し、少人数ごとで初詣に出かけたり、ドライブで車の中からあじさい寺を見学したりしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念については、誰もが目で見て確認出来るように休憩室に掲示している。日々の業務のなかで、入居者様自身のその人らしさを一番に考えて業務に取り組んでいる。	理念「その人がその人らしく」はホーム内に掲示され、職員に浸透している。理念の具体化として、食事の時間を利用者の希望に合わせて、自宅へ戻りたいという思いに沿って帰省を支援したりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、今年度においては交流を控えている。外出等した際にお会いした際にご挨拶程度を行っている。	自治会に参加して回覧版を回している。利用者の散歩の折に、近隣と挨拶を交わしている。町内の公民館で認知症の講習会を開催し、理解を得る工夫をしている。近隣住民からの介護相談にも対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において、以前は講演会等の協力をを行うことが出来ていたが、本年は交流を控えている。地域の方からご相談があった際にはご協力は行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度においては、コロナ禍の影響の為、感染状況に応じて施設内での開催や書面での開催も行っている。場を設けることによりご家族様や意見を頂くことが出来ている。	今年度はコロナ禍で書面会議を中心としたが、対面開催もあった。参加者は家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター担当者などである。利用者・職員の状況、行事、ヒヤリハット・事故の報告をしている。	書面会議の議事録には頂いた意見なども記載している。今後は議事録に参加者の名前を記載すること、およびヒヤリハット・事故報告はその対応まで記載することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上での問題点や不明点は常に電話や訪問し相談をしている。事故等があった際もすぐに相談し報告書を作成している。	介護保険の相談などで市の高齢者支援課と連携している。地域包括支援センターとは運営推進会議を介して相談し、意見をもらっている。市のグループホーム連絡協議会に参加して意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回の研修を実施しており、身体拘束について誰もがあてはまらない事、万が一あてはまらない状況や対応方法は理解している。	「身体拘束等の適正化に関する指針」を策定し身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催している。職員に年2回の研修をして周知している。スピーチロックなどは職員から管理者に報告し、管理者から注意することになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に所内研修を実施している。また、会社の研修制度を利用し、所内研修とは別に自己学習を行っている。虐待等が疑われる際には関係各所への連絡を速やかに行うように職員に話している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加している。実際に活用する機会はないが、そのようなケースが発生した際には慎重に対応していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には、十分に実調を行い、双方が納得のもと、重要事項説明書を用いて、説明をし、契約を行っている。解約時は契約時よりも慎重に対応をしている。変更時等は変更契約書を作成し、説明を行いご納得頂いてから署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員との面談を実施し意見の集約を行っている。また、事業所の運営については、職員の意見も反映しながら運営を行っている。	家族からの意見要望は、面会や電話で意見を聞いている。コロナ禍で面会が出来なかったため、再開の要望が多くあり、オンライン面会ができるようにした。また1人15分であれば対面での面会も可能とした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談を実施し意見の集約を行っている。また、事業所の運営については、職員の意見も反映しながら運営を行っている。	職員には毎月の職員会議で意見を出してもらっている。日常的にも意見や要望を聞いている。理念が浸透しているため、安全な限り職員意見を反映している。レク担当を持ち回り制に変更する検討などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ソラスクールの制度も職員で活用し、PCやスマホでの自己学習の機会も会社として設けている。また、キャリアアップ制度も設けており、スキルアップの環境は整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響の為、本年度は外部での研修を設けることが出来ていない。新人職員にはエルダー（相談役）、OJTと役割を設けて新人育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催のGH連絡会や紡ぐ会などに参加しており、市内の事業所との交流に参加している。また自社のGHの管理者と意見交換等も行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規のご入居者様に対しては、ご家族とケアマネからできるだけ多くの情報を頂くようにしている。ご本人が安心して生活できるよう、表情や言動を注意深く観察しながら職員全員が信頼関係を構築できる体制づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族との信頼関係構築の為、管理者だけではなく、職員もご家族と情報交換を行うようにしている。コロナ禍の影響の為、面会も制限を行っているため、定期的にご連絡を入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族を交えた実地調査を行い、ご本人がソラストの環境になじみ、安心して生活が送れるかを見極め、状況に応じて、より適したサービスを紹介するなどの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であることを職員全員が認識し、家族の一員であるような温かく安心できる関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来訪できるよう、来訪しやすいう環境づくりを行っている。コロナ禍の影響の為、電話やオンラインの面会の取り組みも実施し、ご家族との関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の状態に応じて、ご家族の協力も得て、以前から行っていた趣味活動を通じて住み慣れた環境での生活の継続に努めている。	家族はもちろん近隣の利用者の友人の来訪もある。コロナ禍以前はいつでも出入り自由であった。また、縫い物や絵の好きな利用者の支援をしている。日常の様子は月次のお便りで写真を送付して家族にお知らせしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの配置や雰囲気づくりに共同生活の場であることを意識している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族との関係継続できるように、退去後にも、運営推進会議の参加のお声掛けや相談があった際にも丁寧な対応を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とご家族の希望、これまでの生活歴に合わせて家で過ごしていた時と同じような生活ができる限り継続できるような支援に努めている。	日々のかかわりの中で「はい、いいえ」で答えやすいようにゆっくり聞いて、表情や声質で意思を確認している。意思疎通が困難な利用者は、家族から情報を得ている。得た情報はタブレットの介護記録で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族から、これまでの生活歴を出来るだけ詳しくお聞きし、今までと変わらず生活がおくれるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の細かい変化を介護記録に記載し、職員間で共有している。必要に応じてカンファレンスを開催し、現状の把握と変化への対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時カンファレンスを行い、ご家族へ現状の報告を行い、希望を確認したうえで現状に即した介護計画を作成できるように努めている。	家族とのかかわりの中で、思いや意見を聞いている。職員会議で話し合い、家族、本人の意向を反映した介護計画書をケアマネジャーが作成している。介護計画書は半年に1回の見直しをしており、急変時は随時、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化も記録に記載し、職員全員への共有化を図っている。タブレットにて全職員で状態変化を共有できる環境づくりを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に応じてサービス提供が行えるように努めている。また、福祉用具の業者とも密に連携を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響で外食やお出かけのレク等 は行えてはいないが、地域のお散歩を行っ ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携をとり、24時間体制で 相談できる体制が出来ている。近隣のクリ ニックを提携医療機関としており、往診以外 にも外来でレントゲン検査等が出来る対応 となっている。	月2回かかりつけ医の往診があり、緊急時 の対応体制もできている。専門医の受診は 家族対応だが、難しい場合は職員が同行 し、情報共有している。看護師の職員が週1 回以上の健康管理をしている。24時間オン コール体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコール対応の自社NSがあり、 週に複数回、健康観察と健康相談を行って いる。正確な情報をもとに受診ができる体 制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、できる限り早く退院が出来る ように家族と病院担当者で連携を取り、情 報交換に努めている。必要に応じて、家族 を交えた担当者会議に職員が参加してい る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけの医療機関と連携をとり、重度 化や終末期の段階になった際には、主治医 を交えてご家族と共の話し合いの場を設け ている。また、必要に応じて、訪問看護とも 連携している。	「看取りに関する指針」を作成しており、職員 に周知している。全職員は、法人主催の研 修に参加し理解を深め、職員会議でも話し 合いをしている。昨年は看取りの事例があっ た。家族にガウンテクニックを学んでもらい、 最期の食事提供をしてもらった事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修にて、緊急時の応急手当・初期対 応の訓練を行っている。緊急時のマニュアル を掲示することで有事の際の体制づくり を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施しており、有事の際の誘導 方法については周知を図っている。地域と の協力体制は現状取れてはいないが、今 後は隣接する福祉施設との連携を検討して いる。	消防署の協力を得て、併設のデイサービス と合同で、避難訓練を実施している。避難経 路の確認もおこなった。発電機、カセットコン ロ、食料品や飲料水の備蓄している。	今後は近隣住民との連携の強化および夜間想定訓練の実施を期待する。また、全職員が漏れなく参加できる工夫が望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な温かい雰囲気でありながら、接遇の徹底を目指している。ご利用者の人格を常に尊重するように心がけている。	尊厳を大切にし、支援の際は苗字で呼ぶ、大声を出さないなどの配慮をしている。気になる声かけがあった時は、管理者・職員と一緒に見直しをしている。個人情報保護のためタブレットにはパスワードを設定し、書類は鍵をかけて保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員や施設の都合で対象者の生活を決めるのではなく、常に入居者様がどのようにしたいのか決めていただけるようなお声掛けや支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの趣味嗜好を把握し、無理強いするのではなく、各々のペースに沿って穏やかに過ごしていただけるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝時や起床時には更衣を促し、メリハリのある生活が送れるように支援を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が全て行うのではなく、職員と共にテーブル吹きや配膳・片付けを行っている。嗜好を考慮しながらも嫌いな食材は代替して提供するなどの配慮をしている。	コロナ禍で制限はあるが、利用者ができることを職員が声かけしながらおこなっている。率先して食器を洗う利用者もいた。外食が難しいため、テイクアウトを利用して、時には普段と違うものを楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医と連携をとり、十分な食事が摂取できない方には、栄養補助食を提供したり、栄養や水分補給が出来るよう支援をしている。歯科医とも連携を取り、残存する機能に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分の歯(義歯)で食べることが出来るように支援している。食事後には口腔ケアを実施し、肺炎の予防にも努めている。適宜、歯科医師による診察や指導も受けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りご自身でトイレで排泄が出来るように支援している。	排泄表やタブレットを利用して職員間で情報共有している。利用者の自尊心に配慮しながら、無理強いせず、声かけやトイレ誘導の支援をしている。失禁があった際の声かけには特に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し、下剤を調整して排便のコントロールや必要に応じて看護師対応にて浣腸を行っている。日々の生活動作や運動を行い、また、食事量や水分量が適切であるかに気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴をしたくない時には別日に入浴を行うよう、出来る限りご本人の希望に沿い、入浴支援を行えるように努めている。	基本は同性介助とし、週2回程の入浴支援をしている。入りたがらない利用者には清拭や、午前を午後に変えるなどの対応をしている。しょうぶ、ゆず湯で季節感を出している。浴室と脱衣室の温度差がないように気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医と密に連携し、安心眠れるように支援している。1年を通じてリビングや居室の温度や湿度に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導にて薬剤師と連携を取りながら薬の変更を確認している。また、薬の変更があった際には、連絡ノートへ記載し全職員への共有を図っている。服用開始後より、様子は細かく記載し、変化が見られないかを観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品はご家族がご用意してくださっている。料理などの生活歴に応じたレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響の為、感染拡大防止の為、極力外出レクリエーション活動などは控えている。周囲のお散歩を継続して行って支援している。	コロナ禍以前は近隣のスーパーや衣料品店などに職員と一緒に出かけることもあった。コロナ禍で外出は厳しいが、出来ることは継続している。年始には近くの神社へ職員同行で初詣をした。春には近くの公園で花見をする計画もある。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐため、金銭の所持に関する支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、自由に電話や手紙のやり取りができるような体制は取っている。また、オンラインでの面会支援の方も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全には配慮しながらも、季節感を感じられる装飾を実施している。居心地の良い環境づくりへ配慮に努めている。	リビングは清潔で、利用者が作成した季節を感じる掲示物を飾っていた。ソファがあり、利用者がくつろげるようにしている。居室およびリビングは、午前と午後には換気するようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを用意し、気分に合わせて思い思いに過ごせるように努めている。また、座席の配置を変更したりと雰囲気を変更することに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具を必要に応じて持ち込み使用して頂いている。居室内の環境の整頓にも努めている。	家族と相談しながら、できるだけ自宅にいた時と同じように過ごせるような居室を作るようにしている。馴染みのものの持ち込みは特に制限していない。出来る利用者は週に1回、職員と掃除をしている。居室は整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物を置かないように徹底し安全に自立して過ごせるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと